

〈報道資料〉

2010年12月16日(木)

平成22年度第2回『長期優良住宅先導事業』に
「フィアスホーム長期優良住宅先導事業プロジェクト」
(住宅の新築に関する提案)が採択

株式会社トステム住宅研究所
フィアスホームカンパニー

トステムやINAXなどの事業会社を擁する株式会社住生活グループ傘下で、住宅FCを全国に展開している株式会社トステム住宅研究所 フィアスホームカンパニー(住所:東京都江東区亀戸 1-5-7/カンパニービル レジデント:条生秀人)は、この度、国土交通省が実施する平成22年度第2回「長期優良住宅先導事業」において、「フィアスホーム長期優良住宅先導事業プロジェクト」(住宅の新築に関する提案)の提案がモデル事業として採択されました。

フィアスホームは、「つくっては壊す(フロー型)」から「いいものをつくってきちんと手入れして長く大切に使う(ストック型)」へと国の住宅政策が変化する中で、「環境経営に基づいた高品質で資産価値の高い住宅」を提供すべく、価値ある資産としての住まいを末永く安心してお住まい頂ける家づくりを進めております。

今年の夏は、観測史上最多の猛暑日を記録した厳しい暑さでしたが、このような気候変動や人間による環境破壊は、多くの生物種に重大な影響を与え、生物多様性は深刻な危機に直面しています。このような背景の元、古来、日本人が創り上げてきた【季節に応じて、風や太陽光を巧みに取入れ、気候や風土に合った『自然を活かしたエコロジーな住まい』]が見直されてきています。

今回、フィアスホームでは、先人の考え方を取り入れ、『先導的なテクノロジー』・『省エネルギー設備』+『自然の活用』+『通風に関する新技術』により、長く住み継がれる住宅の“少”エネ性と快適性を高め、更に、地球環境保全へ配慮する「フィアスホーム長期優良住宅先導プロジェクト」として提案しております。

また、市場に対して汎用性・普及性をより一層確保するため、長期優良住宅仕様に標準対応したフィアスホーム企画商品をベースに先導的な提案を付加することでコストの抑制も図っています。

フィアスホームでは、今回採択された提案内容を普及啓蒙するだけでなく、本提案のエッセンスを今後の商品開発に活かすことで、人々の豊かな住生活に貢献して参ります。

■長期優良住宅先導事業とは

「いいものをつくってきちんと手入れして長く大切に使う」というストック社会のあり方について、具体的内容を広く国民に提示し、技術の進展に資するとともに普及啓発を図ることを目的としています。

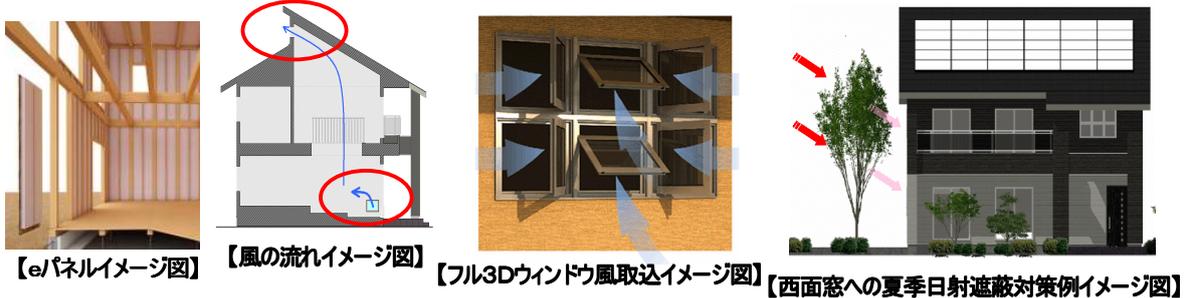
この観点から、住宅の長寿命化に向けた事業の提案を、国が公募によって募り、優れた提案に対して、予算の範囲内において、事業の実施に要する費用の一部を補助するものです。

(国土交通省ホームページより)

『フィアスホーム長期優良住宅先導事業プロジェクト』概要

1. 自立循環型住宅の設計手法を発展させた省エネの考え方

- 1) 「集成材＋金物接合」の高精度の躯体と、工場生産されたオリジナルのプラスチック系断熱材一体型パネル『eパネル』を躯体間に嵌め込むことにより、施工品質による不具合を極力小さくし、次世代省エネ基準を上回る断熱性・気密性を確保、快適性と省エネを両立させ、将来に亘り結露が起こりにくい耐久性に優れた住宅を計画します。
- 2) 地窓とハイサイドライト(頂側窓)、涼風を取込む外構植栽、建物内部の通風を確保する内部建具の工夫などによる自然風の積極的な取り込み、更に、『フル3Dウィンドウ』により一層通風効果を高め、空調・照明設備に全面的に頼らず、省エネやCO2削減に貢献します。
- 3) 庇、落葉樹等により、夏の日差しを遮り、冬の日差しを取込みます(建設地の条件等により対応は異なります)。



2. 地球環境にやさしいライフスタイルの提案

長期に亘り存在する住宅において、特に、地球環境への配慮が社会的使命と考えます。そこで、居住者のライフスタイルをエコロジカルなものに転換させ、21世紀の課題である「持続可能な社会の形成」に貢献するため、以下対策を実施します。また、これら対策の実施により、居住者が四季の移り変わりを感じ、住宅への愛着を増す効用があると考えます。

- 1) 居住者のライフスタイルを省エネなものに転換する仕掛け
省エネ性能をeレポートや通風・日照シミュレーション、性能報告書にて「見える化」することにより、省エネな生活スタイルへの変換を働きかけます。
- 2) 資源の再利用への取組み
生ゴミ処理容器、生ゴミ処理機、通気式生ごみ保管排出容器等の何れかにより、生ゴミの減量と資源の再利用を可能にします。さらに、雨水を雨水タンクに貯め排水への利用を可能にすることで、排水効果による涼風確保を促進、植物の水やり等にも雨水利用を可能にすることで、節水にも貢献します。
- 3) 生物多様性保全への取組み
最も身近な自然である各家庭の庭に野鳥の食餌木となる2種以上の植物を植えることで、生物多様性の保全に貢献します。
- 4) 地球規模での環境保全への取組み
合法性・持続可能性の証明された木材である合法木材を、構造材の柱・梁・桁(間柱、小ばり、羽柄材、火打ち、その他これらに類するものを除く)に利用することで、地球規模での環境保全と地球資源の持続可能な森林管理に寄与します。



【eレポートイメージ】



【通風・日照シミュレーションイメージ】



【性能報告書イメージ】

【省エネ性能の見える化】

3. 「太陽光発電システム＋電気自動車対応」による創エネルギーと自家消費の『循環型システム』

1. の省エネ対策によりエネルギー消費とCO2 排出量を低減するが、さらに太陽光発電システムを搭載し、エネルギーの創造を行い、照明・家電等で使用、今後普及が予想される電気自動車に対応した充電設備を設け、プラグインで充電し、窒素酸化物などの大気汚染物質や二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量が大幅に削減される電気自動車の走行を可能にします。将来的に電気自動車側の環境が整えば、深夜電力を使い自動車に貯めた電気を家の中でも使用する事で、さらなるCO2 の低減を行い、長期に亘り地球環境の保全に貢献する事が可能な『循環型システム』とします。



【循環型システムイメージ図】



※①: 電気自動車に貯めた電気を住宅で消費する技術は2010年9月の段階では未確立のため、将来実現した場合を想定しています

4. 住宅の耐久性に対する考え

- 1) 耐震等級 : 耐震等級3を標準仕様とし、さらに基礎の耐久性の向上を図ります。
- 2) 耐久性 : 劣化対策等級は3を標準仕様とし、併せてメンテナンス時と可変時の設備の点検や更新のしやすさに配慮した床下空間を確保し、耐久性とメンテナンス性を向上させます。
- 3) 家族のライフステージの変化とともに、間仕切り変更を容易に行える可変性を確保した計画とし、耐震等級3を確保する際は準耐力壁等を含めない計画とします。

5. まちなみ景観への配慮に対する考え

既存市街地のまちなみに馴染み、良好な景観を形成するよう、チェックシートに基づく計画を行うことにより、周辺環境に配慮した建設を行います。これにより、近隣住民のコミュニティを促し、資産価値の維持にも有効であると考えます。(まちなみが形成されていない場所においては、地域の景観を先導する配慮を行います。)

また、外観各部をデザインコード化することにより、FC加盟店の担当者毎のパラツキが少ないデザインを実現させます。

6. 長期優良住宅普及への考え

フィアスホームは、『200年住宅のトップランナー』になるべく、「環境経営に基づき、高品質で資産価値の高い住宅」を提供することで、人々の豊かな住生活に貢献したいと考えています。「つくっては壊す(フロー型)から「手入れして長く使う(ストック型)」に国の住宅政策が大きく転換した市場スタンダードを先取りし、商品開発や仕組みの構築を行っています。このような中、フランチャイズの仕組みをフルに活用し、長期優良住宅のFC加盟店社員向け研修から、業務上必要な情報提供、商品の提供、設計施工、引渡し、点検、メンテナンスまで、FC本部のサポート及び情報の一元管理を行いながら、FC本部とFC加盟店が一体となり、長期に使用される住宅の普及促進に努めています。



【「長期優良住宅」実現に向けたFC本部サポート概念図】

※本件に関する報道関係者各位からのお問い合わせは下記までお願いします。

(株)トステム住宅研究所 広報・宣伝室 フィアスホーム広報担当 千明
 電話: 03-5626-8251 メール: chigirak3@tostemju-ken.co.jp
 フィアスホームホームページ/TOP URL: <http://www.fiace.jp/>